

5% (...

 \cdot (1)

(2)

 $\cdot (3)$

(4)

細

IT:

願書副本

Шi

状

则

X

쟔

通通

辿

- オ案の名称
 基板の取付装置
- 2、実用新案登録請求の範囲
 - (1) 電子部品を半田付けして取付けた基板を筐体 にスペーサを介して取付けた基板の取付装置に おいて、基板と筐体との間に絶縁シートを配置 してなる基板の取付装置。
 - 2) スペーサの外周面に突起を形成し、この突起 に絶縁シートを載置してなる実用新案登録請求 の範囲第1項記載の基板の取付装置。
 - (3) スペーサと絶縁シートを一体成形成してなる 実用新案登録請求の範囲第1項記載の基板の取 付装置。
- 3、考案の詳細な説明

本考案は基板を調理器等の管体に取付ける取付装置に関し、特に基板に固定された電子部品のリード線と管体との絶縁距離を確保しようとするものである。

近年、調理器等の機器自体の大きさが見直され

2

つつあり、絶縁距離を考慮する必要のある電子部 品と管体間の空間もおのずと限定されてしまうの が現状であった。

本考案は上記従来の基板の取付装置の欠点を解消しようとするもので以下に本考案の実施例について添付図面を参照して説明する。

第2,3図において、第1図と同一構成物に対して同一番号を付し、説明を省略する。

第2回において、7は筒体4に破損されプリン

ト基板1と筺体4間に配置された絶縁シートであり、例えば厚さ O.3 mm以上とし、スペーサ 5 が貫通する穴が設けられている。この場合、絶縁シート7を単に筺体4に根置するのみであるため、プリント基板1と筐体4との間隔はリード線3の突出部分を収納できる程度で、電気部品2のリード線3と管体との絶縁距離を確保することができる。

第3図は本考案の他の実施例を示すもので、絶 緑シートアをスペーサ5で支持している。このスペーサ5は第4,5図に示すように、外周面に突 起8が形成され、一方、絶緑シートアのスペーサ 5桶入用穴には突起8に対応して切欠き9が形成 されており、絶緑シートアにスペーサ5を約半分 されており、になるのスペーサ5を回転することがで より、突起8で絶緑シートアを支持することがで きる。

なお、スペーサ5と絶縁シート**7**を第6図に示すように一体形成してもよい。

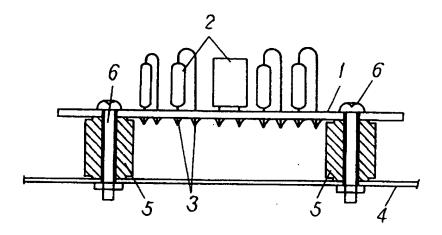
以上の説明から明らかなように、本考室によれ ば基板の裏面から突出するリード線の長さは不揃

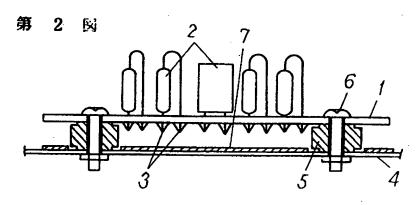
いであっても絶縁シートの介在により基板と管体 の空間を狭くすることができ、またスペーサと絶 緑シートを一体化すれば組立て工数を削減できる。

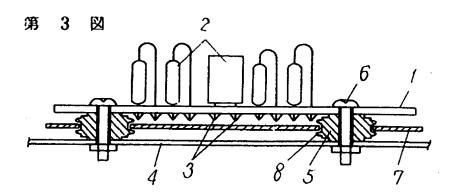
4、図面の簡単な説明

第1図は従来の基板の取付装置の断面図、第2図は本考案の一実施例を示す基板の取付装置の断面図、第3図は本考案の他の実施例を示す断面図、第4図は同装置に用いられるスペーサの斜視図、第5図は同装置の水平断面図、第6図は本考案のさらに他の実施例を示す装置の要部斜視図である。1……プリント基板、2……電子部品、3……リード線、4……管体、5……スペーサ、7……絶縁シート、8……突起。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名







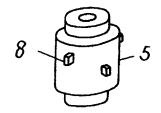
:95493 左

代理人の氏名

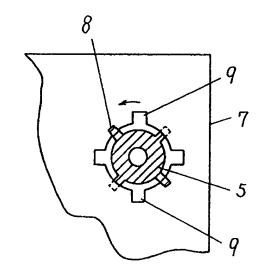
弁理士中 尾級 男

第 4 図

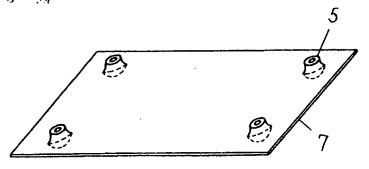
1



第 5 図



9 6 图



135493 4

代理人の氏名

弁理士 中尾 敏男

6 前記以外の考案者および代理人

(1)考案者

大阪府門真市大学門真1006番地松下電器產業株式会社內 氏 名

(2)代理人

大阪府門真市大字門真1006番地 Œ Ħ

松下電器産業株式会社内 (6152) 弁理士 粟 野 重 孝術 氏 名